

ヘルペス (Herpes)

別名：性器ヘルペス、口唇ヘルペス、単純ヘルペスウイルス、HSV

ヘルペスはよく見られる STI（性感染症）で、単純ヘルペスウイルス（Herpes Simplex Virus: HSV）により引き起こされます。ヘルペスは、性的な接触の最中の皮膚と皮膚の接触で感染し得る感染症です。

重要ポイント

- 性器ヘルペスは、もっともよく見られる性感染症のひとつです
- ヘルペス感染者の多くは無症状です
- 検査は通常、かいようやかゆみが出ている箇所からのスワブによるサンプル採取で行われます
- ヘルペスの症状を管理する治療を受けることができます

ヘルペスとは？ (What is this?)

単純ヘルペスウイルス（Herpes Simplex Virus : HSV）は、性器や口、唇、肛門のわずかなすり傷（傷口）から体内に侵入することができます。

HSV-1 と HSV-2 (HSV-1 and HSV-2)

ヘルペスウイルスには、HSV-1 と HSV-2 の二種類があります。どちらのタイプのヘルペスも性器ヘルペスを引き起こすことができますが、それぞれ結果が異なります。

HSV-1 は通常、口唇ヘルペスを引き起こしますが、性器ヘルペスを発症させることもあります：

- HSV-1 の性器への感染でもっともよく見られるのは、過去に口唇ヘルペスウイルスに接触したことがない人が、口唇ヘルペスウイルスを保有している人（症状があるか無症状かにかかわらず）からオーラルセックスを受けることで感染するというケースです。感染すると、口や性器、肛門に水ぶくれやかいよう、腫れ・ただれができることがあります。
- 人によっては、HSV-1 に最初に感染したときに痛みがあるかもしれません。また、通常は再発時のほうが痛みは弱くなります。
- HSV-1 感染者は、口唇ヘルペスの症状が出ていないときでも、他の人にこのウイルスをうつしてしまう可能性があります（これは無症候性ウイルス排泄と呼ばれています）。
- HSV-1 が性器に感染した人は、最初の感染・発症の後は抗ウイルス治療が必要となる可能性は低く、この感染症を性的なパートナーにうつしてしまうリスクも低いとされています。

HSV-2 は、性器ヘルペスを引き起こします：

- HSV-2 の性器への感染は、過去にこのウイルスに接触したことがない人が、HSV-2 を保有している人（症状があるか無症状かにかかわらず）とオーラルセックスや膣性交、アナルセックスをすることで発生します。感染すると、口や性器、肛門に水ぶくれやかいよう、腫れ・ただれができることがあります。
- 人によっては、HSV-2 に最初に感染したときに痛みがあるかもしれません。また、通常は再発時のほうが痛みは弱くなります。
- HSV-2 感染者の多くは、性器の腫れ・ただれ、病変や損傷がないときでも、他の人にこのウイルスをうつしてしまう可能性があります（これは無症候性ウイルス排泄と呼ばれています）。
- 性器ヘルペス（HSV-2）の感染者は抗ウイルス治療を必要とする可能性が高く、この感染症を性的なパートナーにうつしてしまうリスクも高いとされています。
- HSV-2 が最初に口腔／唇に感染することはまれであり、健常者であればほぼ間違いなくこのかたちでは再発しません。

ヘルペスにはどのようにして感染するのか (How do you get it?)

ヘルペスは膣性交やオーラルセックス、またはアナルセックス中の皮膚と皮膚の接触により感染します。また、キスやリミング（肛門を舐める行為）や性器の愛撫でも感染し得ます。

ヘルペスは、口唇ヘルペスや、性器に水ぶくれまたは腫れ・ただれなどの症状があらわれているときにもっとも感染力が高くなりますが、無症状のときや、かゆみやチクチクした痛みなどの軽い症状しかないときでも、人から人にうつる可能性があります。

ヘルペスの症状 (What are the symptoms?)

ヘルペス感染者の多くは、最初に感染したときや再発時には無症状です。

しかし、最初に感染したときにつぎのような症状が出ることもあります：

- 痛みを伴う水ぶくれやかいよう、腫れ・ただれ
- 性器やその周辺部の痛みや腫れあがりで、排尿が困難になる
- インフルエンザのような症状
- 細かい皮膚のひび割れ（かゆみを伴う場合と伴わない場合があります）
- 赤みや発疹

再発時の症状は多くの場合、まったくの無症状か、軽いかゆみ・炎症・チクチクした痛み程度ですが、再発時に性器やお尻の部分、太もも、肛門に局所的な小さな水ぶくれやかいよう、腫れ・ただれが現れる人もいます。

ヘルペスの検査方法 (How do you test for it?)

かいようやかゆみのある個所から、スワブによるサンプル採取が行われます。この検査により、そのウイルスが HSV-1 なのか HSV-2 なのかも判別できます。

HSV を対象とした血液検査を提供している医療機関もありますが、この検査方法は症状が出ていない人だとあまり正確な結果が得られません。

ヘルペスの治療法 (How is it treated?)

ヘルペスを完全に治癒する方法はありませんが、治療により症状をやわらげることができ、再発の予防にもなります。

抗ウイルス薬は非常に効果的で、長期にわたり服用しても非常に安全な薬です。

初感染に対しては、最大 10 日間の治療で症状を弱くしたり、症状の期間を短縮したりします。

再発の際には、症状の兆候が最初に現れたときに始める発症時療法を短い 1 日クールの治療で行うことができます。

再発が頻繁に発生する場合は、毎日服用する薬を継続的に摂取することで、再発を抑制することができます。抑制療法には、性的なパートナーへのヘルペスウイルス感染リスクを抑えるというメリットもあります。

ヘルペス感染者はよく、自らのニーズや状況に応じて発症時療法と抑制療法を切り替えて利用しています。

治療しなかった場合の合併症 (Are there any complications if not treated?)

新生児とヘルペス (Herpes in newborn babies)

HSV-1、HSV-2 のいずれも、新生児に深刻な感染症を引き起こす可能性があります。新生児ヘルペス（新生児に影響をおよぼすヘルペス）は、赤ちゃんが出生時にヘルペスウイルスに感染してしまうことで発生します。新生児ヘルペスはまれではありますが、深刻な感染症です。

新生児への感染リスクは、女性（または妊娠中の人）のヘルペスへの初感染が妊娠後期（妊娠期間の最後の 3 ヶ月間の時期）に発生したときに、もっとも高くなります。そのような場合は、帝王切開が推奨されています。

再発性の性器ヘルペスに感染している女性（もしくは妊娠中の人）が新生児にそのウイルスをうつしてしまうリスクは、低いとされています。帝王切開が検討されるのは、HSV によるかいようが出産時に目視できる状態である場合のみです。

妊娠中のヘルペスへの感染リスクを抑えるために、つぎの点に注意しましょう：

- 口唇ヘルペスに感染している人は、妊娠中のパートナーにオーラルセックスをしない（ただし妊娠中のパートナーが既に HSV-1 に感染していると分かっている場合を除く）。
- 性器ヘルペスに感染している人は、自分のパートナーが性器ヘルペスに感染するリスクがあるのであれば、そのパートナーの妊娠期間中を通して抗ウイルス薬による抑制療法を受けることや、コンドームやダム（薄いビニール状の防護シート）、適切な潤滑剤の使用を検討する。
- 妊娠中で再発性のヘルペスに感染している人は、妊娠期間の最後の 2～3 週間の時期に抑制療法を受けて再発を予防し、それにより結果として帝王切開も避けるという選択肢を取ることもできます。これは安全かつ効果的な対応であることが既に示されています。

治療後の再発の可能性 (Is it likely to come back after treatment?)

ヘルペスを完全に治癒する方法はありませんが、治療により症状をやわらげることができ、再発の予防にもなります。

ヘルペスはつぎのような理由で再発することがあります：

- ストレスや一般的な病気・体調不良
- 生理
- 性行為
- 免疫力の低下（例：がんの治療中など）

自分を守るために (How can I protect myself?)

ヘルペスから自分を守るのに一番良い方法は、口唇ヘルペスや性器の腫れ・ただれ、水ぶくれなどのヘルペスの症状が出ているパートナーとの口や性器の接触を避けることです。

ヘルペスは症状を発症することなく皮膚上に存在し得ますし、腫れやただれがまったく出ていない人からも感染する可能性がありますので、常にコンドームを使うようにしましょう。

また、皮膚への外傷を防ぐために、シリコンベースの潤滑剤を使いましょう。

ヘルペスに感染している人は、抑制療法について医師に相談してください。抑制療法を受けることで、他の人にヘルペスをうつしてしまうリスクを 50%削減できます。

支援を得られる場所 (Where can I get help?)

- 最寄りの性健康・性感染症サービス機関に行く
- お住いの地域の医師に診てもらう
- お住まいの地域のコミュニティ医療センターに行く

StaySTIFree [STIに感染しないために] のウェブサイト (staystifree.org.au) で、性健康・性感染症サービス機関を探してみましょう。

免責事項 (DISCLAIMER)

このファクトシートは一般的な性健康についての情報を提供するものであり、あなたの医師への相談やその医師による診療の必要性を代替する目的で作成されたものではありません。

自身の健康に不安や懸念がある場合は、あなたの医師に相談してください。

緊急の治療やケアを要する場合は、最寄りの救急科に行くか、000番（救急）に電話通報してください。